

週間火山概況（平成 29 年 4 月 7 日～ 4 月 13 日）

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 4 月 13 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島、口永良部島
	レベル 2（火口周辺規制）	草津白根山、浅間山、御嶽山、霧島山(新燃岳)、 諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	ベヨネース列岩、福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山、岩木山、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、日光白根山、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、鶴見岳・伽藍岳、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。

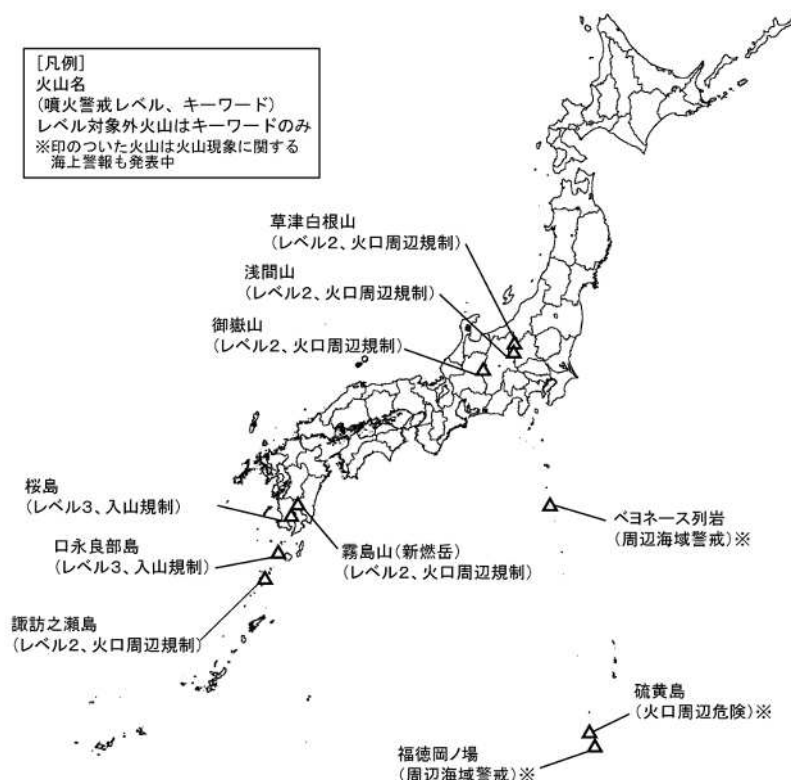


図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山（4 月 13 日現在）

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

くさつしらねさん

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

東京工業大学によると、2014年以降、湯釜湖水の化学組成は火山活動が高まった状態であることが確認されています。また、全磁力観測¹⁾によると、2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示唆する変化は、2014年7月に停滞しています。

なお、監視カメラによる観測では、引き続き湯釜北側噴気地帯や湯釜火口内の状況に特段の変化は認められません。火山性地震は少なく、地殻変動観測に特段の変化は認められません。

小規模な噴火が発生する可能性があるため、湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が遠方まで風に流されて降るため注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

あさまやま

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

山頂直下のごく浅い所を震源とする火山性地震の活動は、2015年4月頃から高まった状態で経過しています（図2）。山頂の南南西にある塩野山の傾斜計³⁾では、2016年12月頃から北または北西上がりのわずかな変化が観測されています。国土地理院のGNSS⁴⁾連続観測によると、浅間山を南北に挟む基線で2016年秋頃から小さな伸びがみられています。

12日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾は1日あたり1,400トン（前回4月6日1,500トン）と多い状態でした。山頂火口では、2016年12月末頃から高感度の監視カメラで確認できる程度の微弱な火映⁶⁾が時々観測されています。

火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

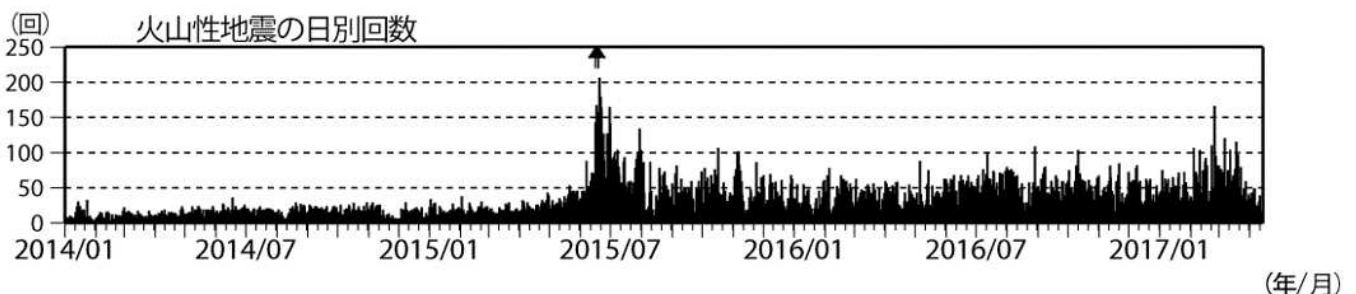


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2014年1月1日～2017年4月13日）
（矢印はごく小規模な噴火を示す）

おんたけさん

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

山頂火口からの噴煙は白色で、火口縁上概ね100m以下で経過しています。

山頂直下の地震活動は、回数は少ないながらも継続しています。

GNSS 連続観測によると、2014年10月以降、山体付近の収縮によると考えられる縮みの傾向がみられています。

2014年10月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いていますが、山頂火口の噴煙活動や地震活動は続いているため、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

れつがん

ペヨネース列岩〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

明神礁付近では、4月10日及び13日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、変色水は確認されませんでした。現在も火山活動の活発な状態が続いていると考えられます。今後、小規模な海底噴火が発生する可能性がありますので、明神礁付近及び周辺海域では海底噴火に警戒してく

ださい。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

いおうとう **硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報〕**

火山性地震は、やや少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

GNSS連続観測によると、地殻変動は長期的に隆起及び停滞を繰り返しています。最近では、2017年1月頃から隆起速度がやや上がった状態が続いています。

監視カメラでは特段の変化は認められません。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。

火山活動はやや活発な状態で経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、以前に小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では引き続き噴火に警戒してください。

ふくとくあかのば **福徳岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕**

3月7日及び30日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、薄い緑色の変色水域が分布していました。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、やや活発な状態で経過しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

きりしまやま しんやうだけ **霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕**

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

噴煙は火口縁を越えるものは認められず、火口内で消散しました。

地殻変動観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められていません。

新燃岳では、火口内及び西側斜面で弱い噴気や熱異常域⁷⁾が引き続き確認されていることから、今後の火山活動に注意してください。

さくらじま **桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕**

桜島では、噴火は観測されていません。

火山性地震はやや多い状態で経過しました。13日13時12分頃に継続時間約9分の火山性微動が観測されました。

12日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり300トン（前回4月3日200トン）とやや少ない状態でした。

始良カルデラの地下深部の膨張が継続していることから、今後も噴火活動が継続すると考えられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流⁸⁾に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき⁹⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

くちのえらぶじま **口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕**

口永良部島では、噴火は観測されていません。

新岳火口では、白色の噴煙は最高で火口縁上200mまで上がりました。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

12日及び13日に実施した現地調査では、前回（3月26日）と比べて噴煙及び熱異常域の状況に変化は認められませんでした。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり300トン及び200トンでした。

地殻変動観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

新岳火口付近のごく浅い地震の増加が時々みられることや、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が2014年8月の噴火前よりもやや多い状態で経過していることから、2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性あります。

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

すわのせじま 諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

諏訪之瀬島では、噴火は観測されていません。

火山性地震は、少ない状態で経過していましたが、13日に一時的に多い状態となり、地震回数は481回でした。島内の震度観測点（鹿児島十島村諏訪之瀬島）で震度1以上を観測する地震が8回発生し、このうち最大の規模の地震は13日06時42分頃に発生したマグニチュード3.5（速報値）の地震で、震度3を観測しました。傾斜計等の観測データには特段の変化は認められません。

このような地震活動は、2016年4月24日から26日にかけて震度1以上の地震を13回観測して以来ですが、その際には噴火活動の活発化は認められませんでした。

火山性微動は11日に発生し、継続時間の合計は約9分でした。

おたけ
御岳火口では、8日夜間に高感度の監視カメラで火映を観測し、9日には白色の噴煙が最高で火口縁上500mまで上がりました。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

いずのおしま 伊豆大島【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

9日18時頃から、主に伊豆大島西方沖を震源とする火山性地震が増加しました。伊豆大島町元町で震度1を観測する地震が5回発生し、このうち最大の規模の地震は9日18時09分に発生したマグニチュード2.4の地震でした。地震の発生は9日夜から10日午前中にかけての期間が最も多く、それ以降徐々に少なくなっています。伊豆大島では、過去にも一時的な地震増加がみられており、伊豆大島西方沖では2015年3月頃に同様の地震活動がみられました。

低周波地震や火山性微動は観測されていません。また、噴気や地殻変動にも変化は観測されておらず、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

全国の常時観測火山の観測データは、気象庁ホームページでもご覧になれます。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/open-data/data_index.html

- 1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。
- 2) 噴石は、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 傾斜計とは、火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器です。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μ rad（マイクロラジアン）は1 km 先が1 mm 上下するような変化量です。
- 4) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 5) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加します。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。
- 6) 火映とは、赤熱した溶岩や高温のガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 7) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置とは、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測

定される場合があります。

- 8) 火砕流とは、火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km から時速百 km 以上、温度は数百 °C にも達することがあります。
- 9) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

表2 火山現象に関する警報等の発表履歴（平成29年4月7日～4月13日）

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概 要
毎日 02時から3時間 毎に8回	桜島 口永良部島 諏訪之瀬島	降灰予報（定時）	噴火した場合に予想される、降灰範囲及び小さな噴石の落下範囲を予想

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒
レベル4（避難準備）		
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル1（活火山であることに留意）	噴火予報	活火山であることに留意

海底火山については、噴火警報（周辺海域）（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：活火山であることに留意）で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。